

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課

担当課長名：野田 勝

事業名	空港・港湾等アクセス 一般県道 <small>ひめののうまちせん</small> 姫野能町線 <small>いみず つくりみち たかおか なかそね</small> （射水市作道～高岡市中曾根）	事業区分	地方道	事業主体	富山県
起終点	自： <small>とやま いみず つくりみち</small> 富山県射水市作道 至： <small>とやま たかおか なかそね</small> 富山県高岡市中曾根			延長	1.8 km
事業概要 本事業は、国道415号から（主）新湊庄川線までの1.8kmの区間にバイパスを整備するものである。 県西部の中心都市である高岡市と射水市とを結び、並行する国道8号や国道415号の庄川渡河部における慢性的な渋滞の緩和と国際拠点港湾伏木富山港相互及び高規格幹線道路（能越自動車道高岡北IC、北陸自動車道小杉IC）へのアクセス向上を図ることを目的とし、整備を進めている。					
H25年度事業化		H10年度都市計画決定		H27年度用地着手	
H30年度工事着手					
全体事業費	約2.1億円	事業進捗率	約24%	供用済延長	— km
計画交通量	9,900～14,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 4.6 (残事業) 4.6	(残事業) / (事業全体) 18/ 18 億円 (事業費：17/17億円) (維持管理費：0.70/0.70億円)	(残事業) / (事業全体) 80/ 80 億円 (走行時間短縮便益：57/57億円) (走行費用減少便益：18/18億円) (交通事故減少便益：4.5 /4.5億円)	平成25年	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=3.7～5.6（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=3.7～5.6（交通量±10%） 事業費：B/C=4.2～5.1（事業費±10%） 事業費：B/C=4.2～5.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.4～5.1（事業期間±20%） 事業期間：B/C=4.4～5.1（事業期間±20%）					
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流拠点である国際拠点港湾伏木富山港相互及び高規格幹線道路（能越自動車道高岡北IC、北陸自動車道小杉IC）へのアクセスの向上が図れる。</li> <li>・ 国道8号や国道415号の現道交通転換による交通混雑の緩和及び旅行速度の向上が図れる。</li> <li>・ 医療施設への輸送時間の短縮により救急医療活動への支援が図れる。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高岡市長及び射水市長等で構成される「能町作道間道路整備促進期成同盟会」が設置されており、毎年、高岡市等から事業促進の要望が提出されている。</li> <li>・ 地域住民説明会を実施し、周辺住民と合意形成を図っている。</li> </ul>					
事業評価監視委員会の意見 事業を継続する必要があると判断する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 —					
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約27%、事業進捗率約24%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 高岡市側より用地補償及び道路改良を進めており、早期完了を目指し、今後も整備推進していく。					

施設の構造や工法の変更等

土工量収支に配慮し、処分費低減・残土の有効活用等、コスト縮減を図る予定

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図

位置図



凡 例	
	供用済
	該当箇所



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。